

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2022年9月号

NO. 251

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

『野川下り』④ 爽秋の空、水、田、森、古刹

「野川下りシリーズ」も、猛暑のためペースダウンしました。今回も、2か月の夏休み明けですから、ゆったりとスタートしましょう。

野川の中流は、川も沿道も多彩な変化が楽しめます。途中で武蔵野段丘と立川段丘の境、国分寺崖線に沿い、東日本最古の国宝白鳳仏像のある深大寺を訪れ、再び野川の低地に戻り甲州街道を目指します。

244回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年9月24日(第4土曜日)

コース：JR 中央線三鷹駅－<バス>－龍源寺バス停－大沢の里(水車経営農家・古民家・水田など)－飛橋、清水橋、御塔坂橋－深大寺通り－深大寺－神代植物園分園水生植物園－深大寺城址－祇園寺－虎狛神社－国領神社－京王線調布駅(または国領駅)

集合・出発：JR 三鷹駅 10:00 時間厳守
6番バス乗り場から

受付：初回の方は、必ず住所を書いて下さい。前回書いていない方もお願いします。

解散：京王線調布駅(または国領駅) 14:30頃

携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具、4月にお渡したパンフレット『野川マップ』は、シリーズ終了までご持参ください。今回、初回参加の方にはお渡しします。

参加費：300円＋入館料200円、初参加の方は、名札代200円。(必ず着用)。深大寺の拝観料などは各自でお願いします。

みどころ

大沢の里：三鷹市の、人々の暮らしの空間をそのまま博物館として捉える、という構想の下に古民家などを復元、保存している。旧箕輪家住宅主屋は、この地でワサビ栽培を始めた箕輪家が1905(明治35)年に建てた当時の典型的な農家。ハケの水を生かしたワサビ田もある。**水車経営農家**は、1808(文化5)年に造られた水車を現在も動かせる状態で保存している峰岸家。水車は全国でも最大級。共通入場料200円。

深大寺：水の得られなかった武蔵野台地でハケ下に豊富な水が湧くこの地は人々に水神信仰をもたらした。深大寺は水神、深沙大王を祀る寺として天平5(722)年に満功上人が開山した都内では有数の古刹。平安時代に天台宗に改まり18代慈恵大師(通称元三太師)像を安置。山号浮岳山。だるま市で賑わう。境内のソバも人気。

国宝・白鳳期釈迦如来像：深大寺の物置に置かれていた仏像が、2017年に国宝に指定された。新薬師寺の香薬師像、法隆寺の夢違観音像と類似点が多く、「白鳳三仏」と言われ、飛鳥時代後期に奈良で造られた、東日本最古の仏像。

神代植物園水生植物園:都立神代植物園は、ハケの上であり、下の湿地帯は分園として水生植物園となっている。木道が整備され、周遊できる。入場無料。

深大寺城址:1537（天文 5）年、関東進出を図る小田原北条氏に抗するために扇谷上杉家が再興した中世の城郭跡。水生植物園の高台に位置する。

琥珀神社:社伝によると、589（崇峻 2）年創建、農業の神を祀る。現社殿は 1683（天和 3 年）に建造され調布市、狛江市で最古。板垣退助が植樹した「自由の松」がある。

祇園寺:は、730（天平 2）年、または 750（天平勝宝 2）年に深大寺の満功上人が創建。虎狛神社の別当寺。明治時代、自由民権運動の拠点で後に板垣退助が植樹した「自由の松」がある。

コロナ、熱中症対策の継続

当分は、これまで通り用心しましょう。マスクは着用して、必要に応じてはずしてください。水分は、こまめに摂取しましょう。

昼食は距離を保って。持参した食べ物は、ご自分で食べ、余ったら、ご自身で持ち帰りましょう。

太平洋戦争の思い出 —6月WHO報告—

6月例会「野川下りシリーズ③」は、25日（土）でした。6月なのに「気温は34℃、快晴の真夏日」との予報。私たちは予約申し込みなしとしているので、中止連絡は難しいのです。集合して決めることにしました。

当日、西武多摩川線多磨駅で参加者を確認すると42人。皆さん元気いっぱいです、とりあえず、徒歩10分の都立武蔵野の森公園まで歩きました。戦時中は陸軍、戦後はアメリカ軍の飛行場跡地です。公園に入るなり、予定になかった管理センターに入り、戦時中の記録展示の説明を頼みました。ここの冷房もお目当てでした。

園内の「ふるさとの丘」には、全国47都道府県を代表する石の展示がありました。丘の上に立つと、伊豆諸島と結ぶ旅客機やヘリコプターが発着する調布飛行場と、公園の南

部分の各種球技場が見渡せて、その広大さに驚きの声が上がりました。実は、戦後進駐してきた米軍の将兵・家族のための水耕野菜栽培農園、代々木ワシントンハイツが移転した“関東村”、東京外語大学、警察大学の敷地もかつての「東京調布飛行場」の跡地です。

修景池に面した芝生広場には、ふだんは、子ども連れの若い家族がワンタッチテントを張って、食事や軽スポーツを楽しんでいますが、この日はまったく姿がありません。公園の気温は34℃と表示されました。「お出かけはお控えください」との園内のアナウンスに「ここまで来てから言われても」の声も。

公園最後の見どころは、掩体壕（えんたいごう）。戦争末期、首都防衛のため配備された「飛燕」などの戦闘機を米軍の爆撃から隠す防空壕です。土を盛り、その上に木材や鉄骨で骨組みを作り、砂利、砂、セメントで固め、土を掘りだし、壕として、上に土を被せて、草を植えてカモフラージュしたものです。

この作業には地元中学生も大勢動員されたそうです。有蓋壕は30基造られ、現在20基残り、2基を見ることが出来ました。米軍の物量にまかせた爆撃の前に戦闘機は、体当たりの特攻機として出撃したそうです。参加者の中には、昭和20年の東京下町空襲を墨田区で体験された方もおられました。

公園を出て都立野川公園の木陰で、三々五々のお弁当。都立公園は殺菌剤を散布しないせい、虫が元気です。食事中、薄緑の1cmほどのカマキリの赤ちゃんがTシャツに降りてきました。一人前にカマを構えてファイティングポーズをとります。ここでも、集散ではクーラーのある施設を利用しました。

人見街道沿いにある新選組局長・近藤勇の生家（宮川家）跡、産湯をつかった井戸、彼の父が天然理心流近藤周助のために建てた剣道道場跡、勇の胸像、墓所と巡りました。官軍に抵抗して、斬首の刑を受けた近藤勇も調布では英雄、調布市内には4つ銅像があり、彼の名を冠した剣道大会もあります。家族も地元では人望があったのでしょうか。

その後、野川の相曽浦橋で、打ち止めとし、大沢の里には寄らず、バスでJR三鷹駅に向かいました。